

福島稲荷神社例大祭事典

御鎮座一千三十九年

令和八年の例大祭日程

連山車ガイドブック

十月十日

(土)

午前十時

例大祭(拝殿及び神社境内)

午後六時

移御式・御神火授与(拝殿及び神社境内)

午後零時半

本社神輿渡御(市内三十六町)

午後五時半

還 御(拝殿及び神社境内)

午後五時

福島秋祭り連山車(駅前通り)

午前十時

後鎮祭(拝殿)

午前十一時

二之宮神輿宮出し(神社境内)

午後零時半

子供神輿渡御(あんざい写真館前)

午後一時半

二之宮神輿宮入り(神社境内)

午後六時

山車宮入り(神社境内)

十月十二日
(月)





二之宮神輿
子供神輿



福島秋祭り
連山車



福島稲荷神社
例大祭

十月十二日（祝・月）

二之宮神輿渡御▽午前十一時～午後二時頃
神社↓旧スクランブル交差点右折、並木通りを西へ↓13号線を西に渡り、
突き当りを右折、吾妻通りを左折↓福島飯坂線を南に駅前へ↓駅前通りを東へ↓
左折しバセオ通りを北上↓万世町通りを右折し、あんざい写真館前↓境内へ
子供神輿渡御▽午後〇時三〇分
あんざい写真館↓県庁通り↓西参道鳥居↓神社

十月十一日（日）

連山車実施合図打ち上げ花火▽午後二時
山車集合▽午後五時～午後五時三〇分
修祓・開催宣言・来賓祝辞・手締め
連山車出発▽午後五時五〇分
駅前通り↓レンガ通り↓県庁通りを北上↓中央駐車場北側交差点にて解散

十月十日（土）

各町会山車お祓い▽午後一時～

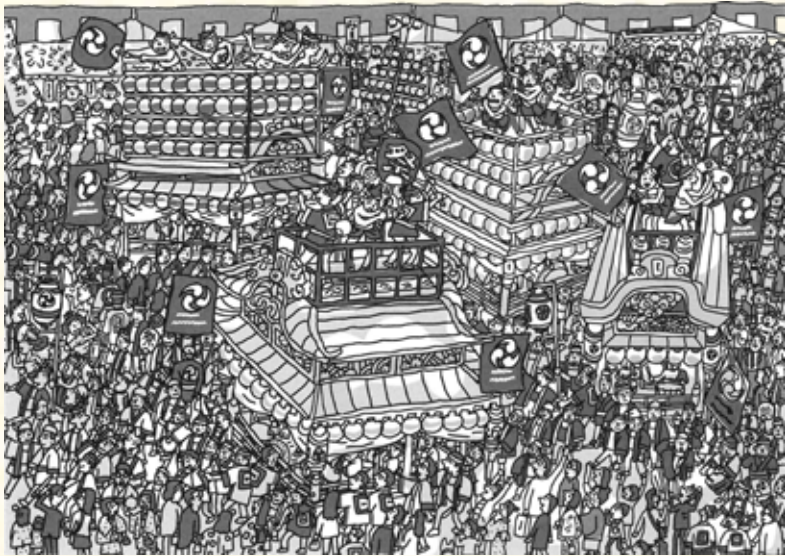
十月十一日（日）

本社神輿渡御▽午後〇時三〇分
本社神輿還御▽午後五時三〇分
福島秋祭り連山車▽午後六時～
後鎮祭▽午前十時～
二之宮神輿宮出し▽午前十一時～
二之宮神輿宮入り▽午後一時三〇分～
山車宮入り▽午後六時～

十月十二日（祝・月）

十月十日（土）

例大祭▽午前十時
移御式▽午後六時 ※神輿への神霊遷し



子どもたちのために伝統文化を未来につなぎ、美しいふるさと福島を守ってまいりましょう



福島稲荷神社

福島市宮町5-2 ☎024-522-2702

公式ホームページ <https://www.fukushima-inari.com/>

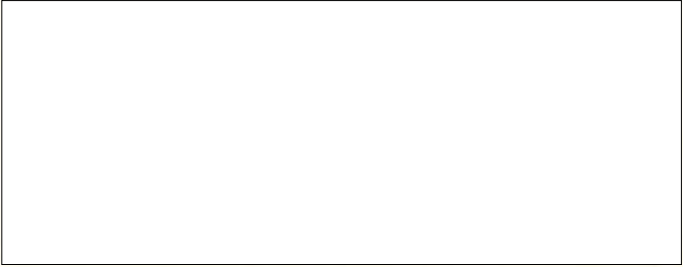
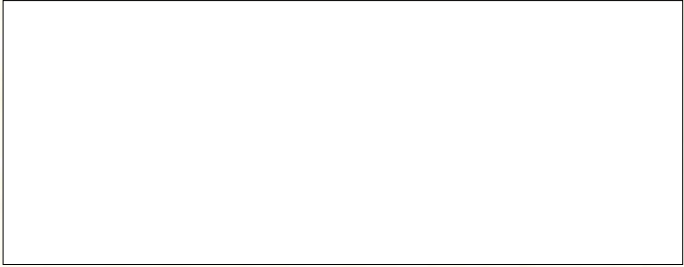


福島稲荷神社（御祭神 豊受比売命、他に大國主命、言代主命）の由緒は、社伝によれば第六代一条天皇の永延元年（九八七年）、当時朝廷に重用された陰陽道博士従五位下、安倍晴明が詔を奉じて奥羽下向の際、吹島の里（後に福島と改む）にさしかかり、西には吾妻山が空にそびえ、北には信夫山が平原の中より屹然として突出し、南は阿武隈川の清流洋洋として東流し、山水の風致、自然の景勝に目を見張るのみならず、地味肥沃にして農耕に適し、将来大いに有望な地相であるとしてここに社を建て、衣食住を司る豊受比売大神（伊勢神宮の外宮の御祭神）を勧請し、此の里の総鎮守としたことになりました。

承安元年（1191年）の孫清明が社殿を改築、のち天正、慶長年間兵火に会い焼失しましたが、寛永元年（1624年）板倉重憲が修営、さらに福島十萬石の藩主堀田正仲（父正俊は元の大老、ゆえあって福島藩へ移封）は元禄二年（1689年）に本殿を、同五年には拝殿を復興造営したことは今に棟札が残されており明らかであります。また元文五年（1774年）板倉勝里が社殿を造営遷座した記録があるなど、江戸時代には福島藩の鎮守とされ、代々の藩主の尊崇を集めてきました。明治二八年に

県社に列しましたが、その後明治三五年の大暴風災害に遇い、倒木により本殿、玉垣が倒壊しました。社殿の復興は大正天皇御即位記念事業として始まりましたが、その後さまざまな紆余曲折を経て、昭和九年に改修事業に着手、昭和十三年福島市民の奉賛により現在の社殿が竣工をみました。

しかしながら半世紀に及ぶ歳月を経て、近年お屋根の傷みが目立ち雨漏りの個所も生じ、又参道の損傷等も大きくなり、貴重な御社殿の奉護、参拝者の安全確保の面からみて速やかな改修工事の必要に迫られておりました。時恰も昭和六二年が御鎮座一千年の佳年に当たることから、この機会に記念事業の一環として奉賛会を組織し、御社殿屋根葺替え並びに参道改修工事を実施致すことと相成りました。諸工事も明治神宮営繕課の監理指導のもと順調に進捗し、昭和六二年四月着工以来二ヶ年を以て「昭和の大修理」は見事竣工を見るに至り、平成元年十月には滞りなく竣工奉告祭を斎行致しました。引き続き御大典記念事業として、重文級の絵馬殿（旧拝殿）、神楽殿、手水舎の屋根替え、鳥居の神号額、飾り金具の修理を実施、平成三年秋に竣工をみております。



一千年の歴史

陰陽師安倍晴明ゆかりの

福島稲荷神社



年に一度の例大祭は「おかげまいり」のときです。私たち日本人は古来「浄明正直」を大切にし、古き良き伝統を守ってきました。



福島稲荷神社 宮司
丹治正博

神社では年間に数多くのお祭りが行われますが、中でも年に一度、最も重要なお祭りを例大祭といいます。第1日目の午前中には一番大切な例大祭の神事が行われ、神様に感謝の気持ちを捧げます。神事ではまずお清めのお祓いから始まり、宮司が本殿の扉をお開けして、神撰（しんせん、神さまへのお供え）をお供えします。神饌の種類は、白米、稲穂、酒、餅、海の魚、川の魚、野鳥、水鳥、海菜、野菜、果物、塩、水などかなりの数になります。神職により丁寧に調理された神饌は、吐く息がかからぬように高く捧げ持って、大勢の神職によってお供えされます。次に宮司の祝詞（のりと）が読み上げられます。祝詞は神様へ日頃のお守りを感謝して、地域の人々の幸福と繁栄、安寧をお願いする内容です。次に巫女による神楽が奉納されます。神楽は神様にご覧頂き、喜んで頂くためのものです。この神事を皮切りに福島の町は祭り一色になります。夕方には神輿に神様の神霊（みたま）をお移しする移御式が厳に行われます。

2日目は正午に本社神輿が神社を出発して旧市内氏子36町会を回ります。夕方には連山車も行われます。駅前に集結した各町の山車が列を連ねて神社まで練り歩く様は勇壮で美しいものです。

3日目の午前には、二之宮神輿が大勢の担ぎ手によって宮出しされます。そのほか後鎮祭の神事、夕方の山車宮入りをもちて3日間にわたる例大祭は幕を閉じます。



令和8年 七五三参りのお知らせ

七五三参りは、7歳の女兒、5歳の男児、3歳の男女児が今まで健康に育ってこれたことを地元の神さまに感謝し、これからの無事成長を祈る日本古来の人生儀礼です。

当社では、拝殿で神主さんが直接祈願する七五三参りのご祈祷（きとう）を毎日行っています（要予約）。祈祷時刻など詳細はお電話またはホームページでご確認を。

ご祈祷料はお子さん1人5,000円より。当日の受付の際、のし袋（上に「初種料」、下にお名前と年齢を記入）に入れお納めください。

◆令和8年の該当生まれ年（数え年）

- 三歳 男・女 令和6年生まれ
- 五歳 男 令和4年生まれ
- 七歳 女 令和2年生まれ

★七五三の特別祈祷日

11月1日（日）・3日（火・祝）・7日（土）・8日（日）・14日（土）・15日（日）

上記の日の午前9時～午後5時まで30分毎にご祈祷致します。混雑の際は、当日申し込みでは承れない場合もございますので、必ずお電話で事前にご予約下さい。

他の日をご希望の場合は、お電話でご祈祷時間をお確かめの上、ご予約下さい。☎024-522-2702

※詳細は、神社公式ホームページをご覧ください。



現在の社殿は明治神宮御社殿、宝物殿の設計などで名高い内務省大江博士の設計によるもので、当代一流の技術の粋を集め、昭和一三年に竣工しました。

拝殿・幣殿・本殿には上質の台湾松を用い、総建坪五八坪余、うつ蒼たる樹林に銅葺きの屋根が映える優美で澄明な社殿です。拝殿は五間に三間ですが、中央はゆったりと他の柱間の倍近くとり、ガラス戸にも古風な部の感覚を生かしています。拝殿の屋根は破風を配した美しい流れをみせ、神苑を限る玉垣透塀の連子格子も社殿の平明さと調和し、福島市民の心のやすらぎとして神域の中心をなしています。

今回の屋根替えにあたり下地木材の取替え、良質・肉厚の銅板の使用、更には拝殿屋根各部分には融雪用ルーフヒーターを敷設するなど、現在考えうる最新の技術の粋を尽くし、外観上も純金製飾り金具と相まって重厚感あふれる屋根に生まれ変わりました



足尾神社

この石宮は昔本殿裏にあって猿田彦命を祀り、祭日を毎年旧11月1日とし昭和13年現在の場所に移されました。足を患っている人や足の弱い人の祈りと共に、旅に出る者が道中安全を祈願して、わらじや草履を献納するという云われが伝えられています。また、ここにはこの石で足をさすると足の病が治るという「おさすり石」が並んでいます。



聖徳太子神社

聖徳太子は古代史上、最古の木造建築とされる法隆寺建立など、寺院建築に残した功績を称えられ、建築関係の職人からの崇敬厚く、地方にも「たいし講」となって伝承されています。昭和 15 年に福島市・信夫郡・伊達郡・安達郡の県北一市三郡の建築業関係者の結集によって計画され、法隆寺夢殿を模した八角形の社殿は、昭和 37 年に竣工しました。



古峯神社

栃木県鹿沼市の古峯神社の御分社で、通称「こぶがはらさま」と言われ、日本武尊をお祀りし、火伏せ・防火の神として、全国的に厚い信仰を集めています。もとは稻荷神社本殿裏手にまつられていましたが、昭和13年本殿改築の折、現在の場所に移されました。例祭は毎年2月旧初午の日となっていて、境内では火伏せ祈願の「湯立て神事」が行われます。



社殿



初詣の参拝者は約十万人を数え、県内有数の賑わい。一月十四・十五日の小正月には松納め、だんご市にあわせ、厄除け・合格祈願のご祈祷者が訪れる。

に流す。境内には氏子より奉納のボンボリ数百灯が夏の夜空を彩る。同三一日には聖徳太子神社の例大祭。

一〇月、一年間の祭礼で最も盛大な例大祭は、養蚕、

二月三日の節分では春の五穀の豊作を感謝し、また訪れを告げる節分祭追儺式凶作の年は翌年の豊作を願う。年男年女が袴姿。天和年間から人々が金で境内特設舞台から豆を撒き、厄を祓う。板倉侯が福島領主になつ

三月。旧初午の日には無
てから、より盛んな大祭に
火災と商売繁昌を祈り、市
なつたと伝えられている

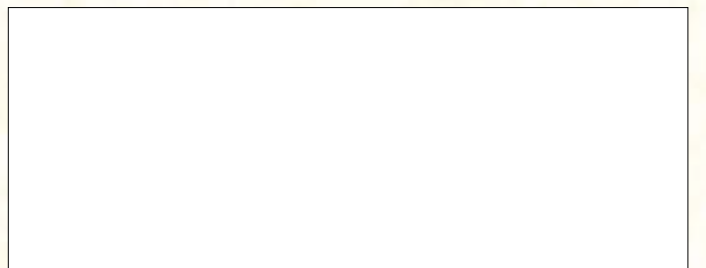
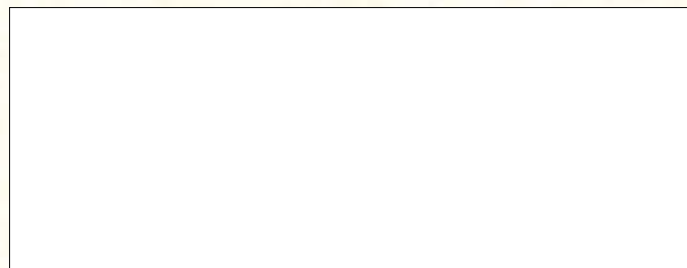
内の消しょう防ぼう関かん係けい者しや等ら参さん列りやうの
 十一じふいち月げつは七しち五ご三さんの月げつ。着き
 もと、古こ式しきにのつとり湯ゆ立た飾かざつた男おとこ女め児こが父ちち母ははととも
 神かみ事じが行いわれる。に鳥とり居いを潜ひそり、神かみ妙めうな顔かほつ

七月三十日は夏越大祓人形祭。茅の輪をくぐり、上半期の心身についた罪・穢れを人形に託して阿武隈川

きでご祈祷を受ける。春秋には結婚式と、四季折々の行事と共に市民の心の拠り所として親しまれている。



一月	元旦	一番祈禱祭
	三日	歳旦祭
	四日	元始祭
		松納め
二月	三日	小正月厄除け祈禱
	十一日	節分祭追儺式
	一七日	紀元祭
	二三日	祈年祭
三月	旧初午	天長祭
		初午祭
	春分の日	古峯神社例祭
		みたままつり
四月	二九日	世良修蔵慰霊祭
		昭和祭
七月	三十日	夏越大祓人形祭
	三一日	聖徳太子神社例大祭
九月	秋分の日	みたままつり
		世良修蔵慰霊祭
十月	スポーツの日	
	が最終日	
	の三連休	例大祭
十一月	一五日	七五三祭
	二三日	新嘗祭
十二月	三一日	大祓
		古神符焼納祭
		除夜祭
毎月	一日	月首祭
	十日	十日祭
	十五日	日供祭



今年も福島稲荷神社例大祭が厳かに執り行われます。まつりを彩る「連山車」は、今年で四三回目。開催にご尽力いただいた関係の皆様から感謝申し上げます。

「連山車」は一九八二年（昭和五七年）に六町参加で始まりました。以来、四〇年以上にわたり、ふくしまの秋を彩り、ふるさとの文化を伝承してまいりました。地域をにぎわいで潤し、ふるさとへの思いを刻み続けております。

ご承知の通り、駅前通りは大いなる過渡期を迎え、新たな街並みの鼓動が始まるうとしております。その序章となる活気ある運行を、心して努めてまいります。

街中に山車が繰り出し、幽玄な提灯が灯され、ふくしまの秋を彩る。郷土愛や集いの温かみなど、ふるさとへの思いを少しでも感じていただけたら幸いです。何よりも、ふくしまに「元気」づける祭りとなるよう執り行う所存です。

ふるさとの秋祭りを心からお楽しみください。



福島秋祭り連山車
実行委員会
会長 中山 伊知郎

連山車

祭礼事務所

太田町会館（消防屯所隣り）

町内引き回しスケジュール

10 日（土）17:00 ～西口駅前（18:00）
11 日（日）10:00 ～ /16:00 ～連山車へ /20:00 ～
12 日（祝）11:00 ～



太田町の半天は雷神様にあやかっただもの。干ばつなどを防ぎ、雨をもたらしてくれた神様として祀られている雷神社がある。子供たちは京都・祇園の流れを汲む「雷神太鼓」を披露。山車は市内で一番の歴史を誇り、提灯が歴史を厳かに物語るように秋の夜を彩る。

西口駅前で行われる近隣町会合同での太鼓披露も見ものだ！

太田町 otamachi



祭礼事務所

三河稲荷神社社務所（三河稲荷隣り）

町内引き回しスケジュール

10 日（土）10:00 ～
11 日（日）10:00 ～町内巡行 /17:00 ～連山車へ
12 日（祝）予備日



三河町の山車は、半世紀を超える歴史を刻む。現在は、コラッセ福島など文化交流の拠点があり街並みは変貌したもの、戦後は工場が立ち並ぶ工業地帯として福島駅西口地域で栄えた土地柄。三河北町・南町両町民の長きにわたる想いが込められた山車だ。霊山太鼓の流れを汲むお囃子を若連が演奏する。

十日（夕方）には西口駅前、太田町・矢剣町・早稲町の四町合同での連山車を引く。

三河町 mikawamachi



手水舎

当社の手水舎は、昭和 13 年に建立以来、80 年近い歴史を有し、地方には珍しい豪壮な手水舎として親しまれてきましたが、平成 23 年に発生した東日本大震災を機に、井戸水を利用しての手水舎改修の気運が高まり、平成 24 年の御鎮座 1025 年と、大震災からの復興を祈念して、手水舎復興事業を実施し、平成 25 年正月に竣功をみました。



絵馬殿

社殿の改築（昭和一三年竣功）にあたり、それまでの拜殿を絵馬殿として移築したものです。かつては福島市指定文化財の元禄八年、福島藩主堀田正虎寄進絵馬「御能之図」をはじめ、多くの奉納絵馬が飾られていたといわれます。

この旧拜殿は元禄五年（一六九二年）、時の福島藩主堀田正仲が造営したものと思われ、現存する福島市の古建造物中、最古のものと言えます。



ヒノキ大鳥居

南参道と西参道の二基の鳥居は、大正 9 年明治神宮御鎮座の際建立された由緒ある東・西外玉垣鳥居です。昭和 40 年、明治神宮の格別の計らいにより当社に交付され、福島市内崇敬者の協賛により翌昭和 41 年、全市を挙げての盛大な御木曳き行事も実施され、無事移築竣功をみました。鳥居扁額の文字は、当時の明治神宮甘露寺受長宮司に揮毫頂いたもの。



世良修蔵官修墳墓

現在に至るまで春秋の彼岸には福島稲荷神社の神職により慰霊祭が厳肅に執り行われているほか、折々に花を手向ける人は絶えず、世良の出身地山口県から訪れる人々は、東北の恨みを一身に受けて敵地で没した世良に対し、地元の人々によって今に至るまで手厚く慰霊が続けられていることを知り、一様に感銘を覚えるといえます。



力石（ちからいし）

江戸時代から明治時代にかけて、祭りの行事として力試しが盛んに行われ、その際にこの石を担いだと云われます。また石占（いしうら）といい、力石を用いて吉凶や願い、事の成就を占ったと言われ、この石に触れると諸願が成就する力を頂けると伝えられています。当神社に伝わる力石は、境内の土中より掘り出されたもので、重量は約 63kg。



あすなろの木 の碑

平成 28 年は御鎮座 1030 年を迎え、また大震災より 5 年の節目にあたることから、福島の将来を担う子どもたちの健やかな成長を祈り、現代版「丈比べ」ともいうべき石碑を建立しました。正面には山上憶良が「子どもは宝」と詠んだ和歌と、伸び行く木を刻み、3 人が同時に背くらべをして神社をバックに記念撮影が出来るようになっています。



祭礼事務所

中町屋台倉庫（絵工堂隣り）

町内引き回しスケジュール

10日（土）19:00～

11日（日）13:30～板倉詰め / 16:30～連山車へ

12日（祝）14:30～ / 17:00～宮入へ



中町中和会が運行する山車は、大正十一年に造られた歴史を持つ。豪壮な造りの屋根には、二本松（上川崎）の彫刻師「後藤源」氏の手による竜虎（前面）、鶴竜（後面）が彫られている。江戸期、福島藩主の板倉氏が大坂勤番から帰福の際、本丸御殿に太鼓を奉納。山車に載せてある小太鼓はそうした由緒を持つ逸品だ。

中町
nakamachi



祭礼事務所

南町集会所（南町 362-1）

町内引き回しスケジュール

10日（土）16:00～

11日（日）10:30～ / 16:30～連山車へ



参加町会では一番南端で橋を渡り元気に参加している。山車は平成二六年度に大改修を実施。地域の有志で山車の枠組みや電飾提灯を作り上げ、思いが込められた山車に仕上がった。子供たちは、夕方から九時まで練習を重ねている。町内一円はもちろん、郷野目や葉の木立の一部にも賑やかさを引き回していく。若い人たちのパフォーマンスも見事！

南町
minamimachi



祭礼事務所

置賜会館（十八代目鶏や清兵衛 3 階）

町内引き回しスケジュール

10日（土）14:30～ 17:00～

11日（日）11:30～ / 16:30～連山車へ

12日（祝）10:30～ 16:45～



福島市内随一の繁華街「置賜町」。福島稲荷神社例大祭や連山車の期間、多くの見物客などで賑わい、街は老いも若きも一緒にまつて祭り一色となる。毎年、町会青年部などの運営により、繁華街らしい勢いのある演出が展開される。提灯が並ぶ二階建ての賑やかな山車は見事。若者たちが勇壮に練り歩く。

置賜町
okitamacho



早稲町
wasecho



今や「こむこむ」は多くの子どもが訪れる街の名物施設。山車に乗る子どもたちが奏でるお囃子は、大太鼓と小太鼓で『しゃぎり』と『角兵衛』が披露され、祭りの活気を高揚させる。山車の造営は昭和三四年。漆塗りの柱に支えられた屋根の正面には黄金に輝く彫り物が施されており、重厚感と威容を誇る歴史ある山車だ。

祭礼事務所

東安寺北西角（早稲町山車置場）

町内引き回しスケジュール

10日（土）17:00～

11日（日）11:00～ / 17:00～連山車へ

12日（祝）15:00～



五月町親和会は、良き伝統、文化を継承し、町を誇りに思う心と人の輪を大切にしている。秋の例大祭には町から離れた友人も駆けつけ、町が活気にあふれる。その結束をもって、「総檜の白木造り」の山車を完成させ、受け継いでいる。秋の穏やかな日とに美しく映え、夕闇に白く輝く自慢の山車だ。

祭礼事務所

たまのや集会所

町内引き回しスケジュール

10日（土）14:00～ 16:00～

11日（日）10:00～子供みこし / 15:30～連山車へ

12日（祝）15:00～後鎮祭山車宮入へ



五月町
satsukicho



祭礼事務所

荒町屋台倉庫（荒町 3-1）

町内引き回しスケジュール

10日（土）17:00～

11日（日）16:00～連山車へ

12日（祝）17:00～



旧国道四号沿いにある荒町は、福島城下において江戸期から商家町として賑わった。現在もその当時から続くお店が人々を温かく迎える。荒町の山車の歴史は古く、大型で存在感にあふれ、また前面の龍の彫り物が自慢。「い組」をあしらった絆纏は江戸時代の火消しの名残で、現在の消防第五分団の纏にも見ることが出来る。伝統ある様相と運行を大切にしながら、祭り好きで威勢の良い若い力で、大いに盛り上がりを見せる三日間になる。

荒町
otamachi



祭礼事務所

さとう内科医院駐車場

町内引き回しスケジュール

10 日（土）4 町連山車 17:00 ～
11 日（日）11:00 ～ / 16:30 ～連山車へ
12 日（祝）10:30 ～



古くは奥州街道「北の関所」があり、旧国道四号線も縦断するなど、街は繁栄の歴史を刻んできた。重厚な太鼓屋台が自慢。正面で黄金に輝く鳳凰の彫り物が特徴の山車だ。祭り初日には、恒例となっている豊田町、上浜町、浜田町、五老内町が集まり、四町連山車が行われる。

豊田町
toyodamachi



祭礼事務所

二瓶さん宅（天神町 3-12）

町内引き回しスケジュール

10 日（土）16:00 ～町内運行
11 日（日）10:00 ～町内運行 / 17:15 ～連山車
12 日（月）15:00 ～町内運行



天神町会の山車は重厚感ある車体に乗る銅板吹き、絢爛な屋根に「天」の文字をあしらった提灯。山車の前後にある立派な鶴と龍の彫り物で、太鼓の音も前半が鶴、後半が龍の動きを表現した鶴龍太鼓（かくりゅうたいこ）で、華やかに、そして勢いよく運行される。天神町は第二回連山車から参加する老舗町会で、たくさんさんの引き手と研鑽を積んだ太鼓、お囃子が自慢でレベルが高く、一目置かれた存在となっている。

天神町
tenjincho

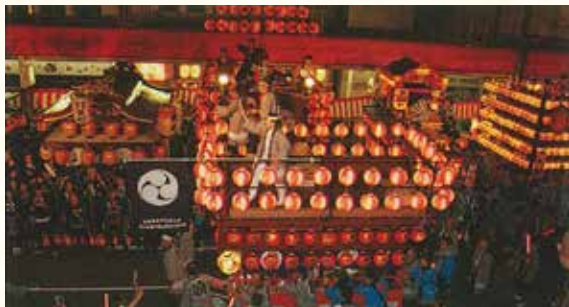


祭礼事務所

清明町 6-17

町内引き回しスケジュール

10 日（土）17:00 ～町内運行
11 日（日）17:00 ～連山車へ
12 日（祝）15:00 ～町内運行



勇壮な雰囲気漂わせる山車は、町内に住んでいた大工の手による見事な龍の彫り物が自慢。三十年ほど前、近隣有志からの寄付を募り作られた。町名の由来は福島稲荷神社とゆかりのある安倍清明。安倍家がこの地に祀られていたという言い伝えがある。最近ではマンションなどが立ち並び子供たちも増え、笛や太鼓、鐘の音とともに活気ある運行が特徴だ。

清明町
seimeicho



祭礼事務所

鼻取地藏隣り

町内引き回しスケジュール

10 日（土）10:00 ～ / 4 町連山車 16:00 ～
11 日（日）10:00 ～ / 16:30 ～連山車へ



福島市役所、JRA福島競馬場のおひざ元「五老内町」。山車は二本松の提灯山車を参考に造られた二階建ての迫力ある提灯山車だ。太鼓は岡部太鼓の流れを汲むが、長い歴史の中でオリジナルのリズムと「しの笛」のメロディに仕上がった子供太鼓。「大早（おおはや）」の乱れ打ちが圧巻で、注目度○！

五老内町
gorouchimachi



祭礼事務所

ウィズ本町 4F

町内引き回しスケジュール

10 日（土）15:00 ～
11 日（日）16:30 ～連山車へ



平成七年に華やかな提灯を勇壮に配した、二階建ての山車を造営した。本町は福島市の商業地として古くから栄え、この山車で歴代三代目となる。近年では福島学院大学駅前キャンパスがオープンするなど、若者の活気が戻ってきた地域。老いも若きも一緒に、伝統の祭りを盛り上げている。

本町
motomachi



祭礼事務所

佐藤康一宅 駐車場（宮下町 16-25）

町内引き回しスケジュール

10 日（土）18:30 ～
11 日（日）10:00 ～ / 16:00 ～連山車へ
12 日（祝）10:00 ～



山車は平成十五年に新調した比較的新しいもので、多くの子供たちを乗せたいとの思いを込め、大きめの太鼓台をベースにした造り。欄干にはギボシがあしらわれた手すりを施し、屋根は重厚な銅版吹きと、豪華で華やかな雰囲気を醸し出している。宮下町は閑静な住宅街。狭い路地での運行はひと苦労だが、受け継がれた熱練の舵取りで元気な子供たちを祭りに誘導する。

宮下町
miyashitacho



祭礼事務所

大町 3-10 時間貸しパーキング

町内引き回しスケジュール

10 日 (土) 16:00 ~

11 日 (日) 14:00 ~ / 16:00 ~ 連山車へ



大町町会では江戸板倉藩時代はお城の大手門前に位置し、明治時代より現在も東邦銀行本店をはじめ證券、保険等経済関係、NHK朝ドラ「エール」の主人公作曲家古関裕而氏の生家「喜多三呉服店」跡の記念碑や近隣には日本銀行等があり経済・文化の中心的役割を担う地域です。

祭り山車は約一〇〇年余の歴史があり、祭り太鼓と共に福島の大空に連綿と賑やかしを響かせています。

大町

omachi



祭礼事務所

さんかく広場南側駐輪場内 (つやこ様隣)

町内引き回しスケジュール

10 日 (土) 13:30 ~ 17:00

11 日 (日) 11:00 ~ / 18:00 ~ 連山車へ

12 日 (祝) 14:00 ~ 17:00 ~



歴史ある栄町の山車は、昭和一二年に造られた伝統あるもの。一三八個の提灯の中には幽玄なロウソクが灯り、秋の夜に神聖な雰囲気放つ。

選抜された若連や小若連が演奏する荒々しい太鼓は、霊山太鼓を取り入れ、三百年の歴史を力強く表現している。

栄町

sakaemachi



祭礼事務所

本法寺 新町 8-12

町内引き回しスケジュール

10 日 (土) 17:30 ~

11 日 (日) 12:00 ~ / 16:00 ~ 連山車へ

12 日 (祝) 17:00 ~



現在の山車は昭和五七年に造作されたもの。荘厳なつくりの屋根を華やかな提灯で囲う代表的な形だ。「1、2、3」の掛け声が響くお囃子は新町独特で、祭りが近づいたことを地域に知らせる。

新町は、連山車が開始された当初から先頭を切って参加する老舗町会。福島稲荷神社の本殿や参道の一部が新町に接するため、祭りへの思い入れは強い。

新町

shinmachi



祭礼事務所

陣場町会館 (陣場町 9)

町内引き回しスケジュール

10 日 (土) 18:00 ~

11 日 (日) 11:00 ~ / 16:30 ~ 連山車へ



「陣場町乱れ打ち」の力強い音色を響かせ、二百八個の提灯を飾った賑やかな屋台が、豪華さとあでやかさを振りまきながら、秋の夜長を彩る。都市化が進む陣場町では児童数の減少が進行しているが、昔は三百名を超える大勢の子供たちが山車を引き太鼓を叩いた。

戦後の貧しい時代につくられた山車には、祭りに対する永年の地域の思いが込められている。

陣場町

jinbacho



祭礼事務所

ミネギン薬局となり (万世町 1-23)

町内引き回しスケジュール

10 日 (土) 18:00 ~

11 日 (日) 17:00 ~ 連山車へ



神々しい提灯が並ぶ万世町の山車からは、太鼓の音色が心地よく響く。祭りが近くなると、地域が一丸となって太鼓の鍛錬を積み重ね、日頃の練習に余念がない。

万世町通りは市道の整備も進み、街並みの景色の変わりつつある。若衆や子供たち、女性陣も一緒になって、昔ながら威勢を保ち、しなやかなパフォーマンスを繰り広げる。

万世町

banseicho



祭礼事務所

白山神社境内山車倉庫

町内引き回しスケジュール

10 日 (土) 14:30 ~ / 4 町連山車 17:30 ~

11 日 (日) 10:00 ~ / 17:00 ~ 連山車へ

12 日 (祝) 10:00 ~ / 13:00 ~



古くは大八車を山車に使用していたらしいが、昭和三二年、町会員から募った寄附で上浜町の山車が作られた。重厚で風格ある山車は、上浜町の狭い路地を限なく練り歩けるよう、小き目な造り。街を愛する心意気が詰まっている。

子供たちが放課後や休日に練習する「お囃子」は、「通り囃・宮入り・オーソリヤ」など七通りの調べで楽しませられる。

上浜町

kamiamacho



祭礼事務所

町内引き回しスケジュール

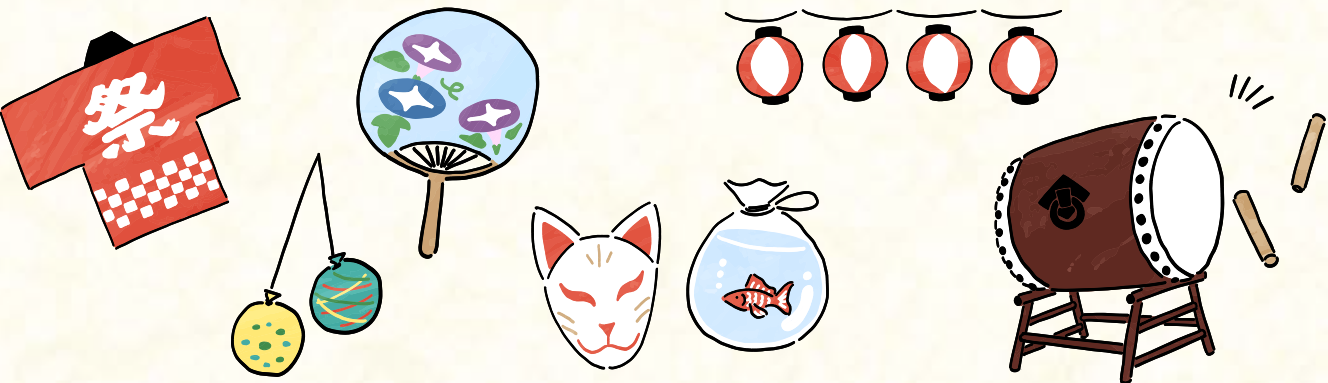
10日(土)～
11日(日)～/～連山車へ
12日(祝)～



約60年前、地元有志が仕立てた山車を始めに、「あばれ山車」から譲り受けた張子を載せての引き回しなどを続け、地域の皆さんの協力を受けながら、現在の山車へと受け継がれてきました。太鼓も保原出身者の指導をきっかけに始まり、今では子どもたちが伝統を受け継いでいます。今年初めて浜田町単独で連山車に途中参加します。

「子どもたちに最高の思い出を！」をモットーに、売店や楽しいくじ引き、ゲーム等を行います。

浜田町
hamadacho



北町
kitamachi



変幻自在に響く「しゃぎり」、しっとりとした響く「祇園」。静と動が交わる「角兵衛」「角兵衛くずし」のお囃子が、秋の空気をやわらかく揺らす。

油引き提灯の灯りが山車をほのかに照らし、揃いの「練瓦崩し半纏」を纏う氏子たちの姿を、鮮やかに浮かび上がらせる。北町のお囃子は秋空へ軽やかに広がり、祭りに澄んだ響きを添えてゆく。

祭礼事務所

福島日産・EV ガーデンふくしま第四駐車場(明治病院向かい)

町内引き回しスケジュール

10日(土) 15:00～17:00
11日(日) 14:00～15:30 / 16:45～連山車へ
12日(祝) 14:30～15:30



祭礼事務所

柳町富士屋

町内引き回しスケジュール

10日(土) 17:10～
11日(日) 16:50～連山車へ
12日(祝) 14:00～



柳町・御倉町
yanagimachi・oguracho



山車は一枚板に透かしの模様を配した太鼓屋台。勇壮な秋祭りの雰囲気を通りに振り撒く。お囃子では、通り囃子、しゃんぎり、宮入りという三種の調べを奏でる。日頃の熱心な練習のたまものだ。

両町のエリアは、奥州街道沿いで商店、寺社、官舎が並び、個人の住まいが少なかった土地柄。そうした土地柄を反映し、ふたつの町会で連山車に参加している。

祭礼事務所

矢剣町会館

町内引き回しスケジュール

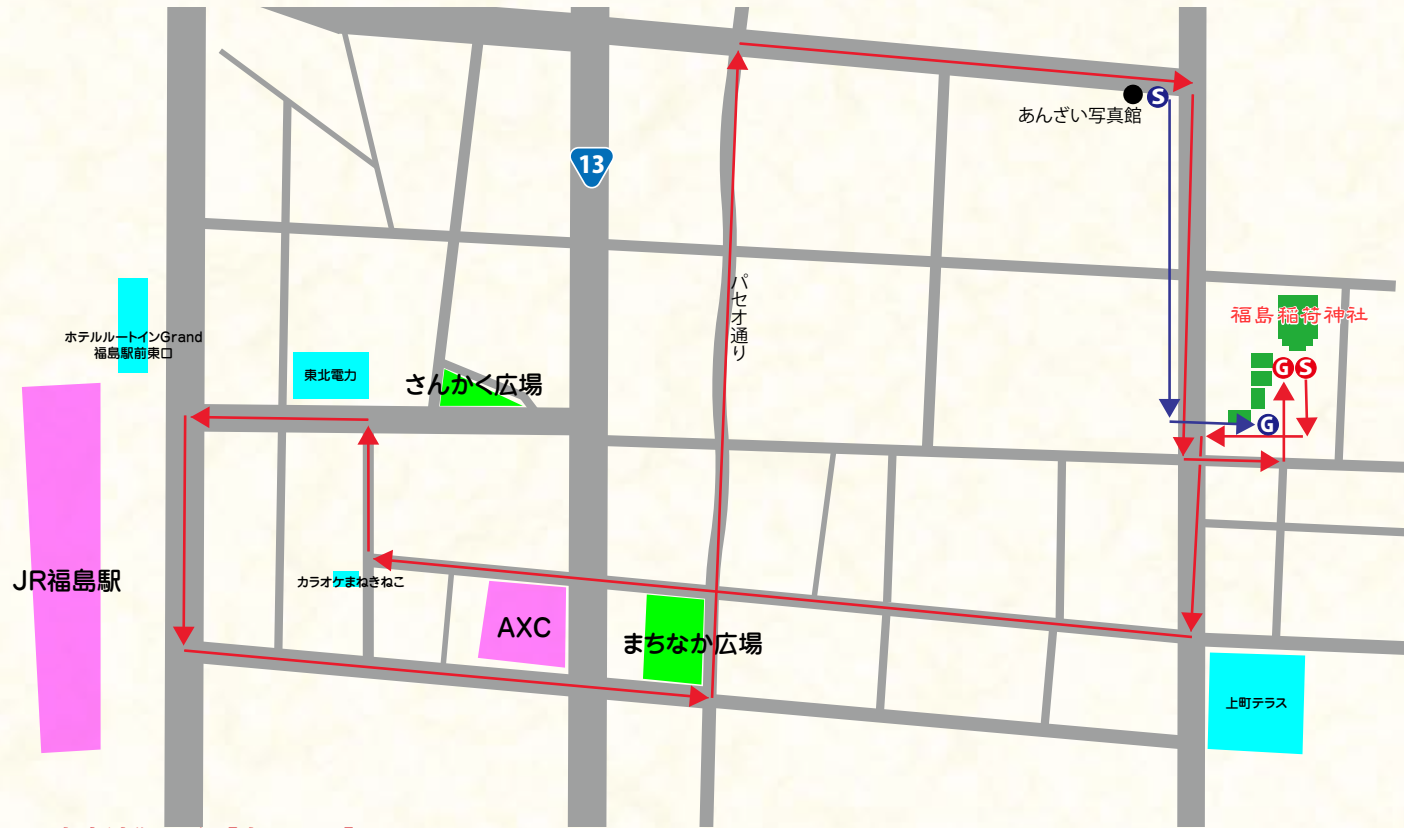
10日(土) 17:00～
11日(日) 10:00～ / 16:50～連山車へ
12日(祝) 10:00～17:00



矢剣町
yatsurugicho



平成十二年から参加した矢剣町。前年の平成十一年には太鼓や提灯、裃天を新調したが、山車はそれより以前に町内の先人たちが造り、代々受け継がれてきたものだ。全漆糊で総ケヤキ造りが自慢。威容を誇り重厚感あふれる山車だが、屋根の前面には往時を感じる色合いの色鮮やかな牡丹の絵柄があらわれている。



●二之宮渡御順路【赤ライン】

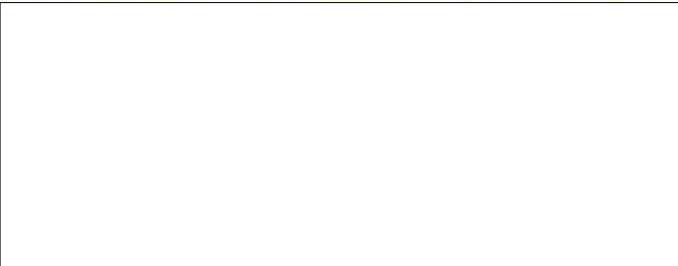
- 午前 10:00 受付開始（神社境内）
11:00 運行開始～西鳥居を出て県庁通りを南へ→旧スクランブル交差点で右折し並木通りを西へ→13号線を西に渡り、突き当りを右折し、吾妻通りを左折→福島飯坂線を南下し駅前へ→駅前通りを東へ→左折しパセオ通りを北上→万世町通りを右折し、あんざい写真館前へ→
- 午後 14:00 宮入り→南鳥居を通り境内へ
14:30 終了

●三之宮渡御順路（子ども神輿）【青ライン】

- 午前 11:00 受付開始（神社境内）
午後 12:30 運行開始
12:50 宮入り～西鳥居を通り境内へ
13:00 終了

⇒神輿を担ぎたい方は

お気軽にお問い合わせください
福島神輿を担ぐ会 事務局
福島市大町 4-15 チェンパ大町 2F
TEL024-522-4841
FAX024-522-6970
(福島まちづくりセンター 担当：北山)



ご挨拶



福島神輿を担ぐ会
代表 草野 勇

神輿とは、神様が神社から出かける際の乗り物。普段は神社にいる神霊が御神輿にお移りになり、氏子町内を練り歩くことで、人々の安寧を祈念します。神輿を激しく振り動かすことで、神様を刺激し、パワーを維持させ、地域の災いや災難、穢れ（けがれ）を取り除いてもらいます。

福島稲荷神社には、「一之宮神輿」「二之宮神輿」「三之宮神輿」の三基があります。

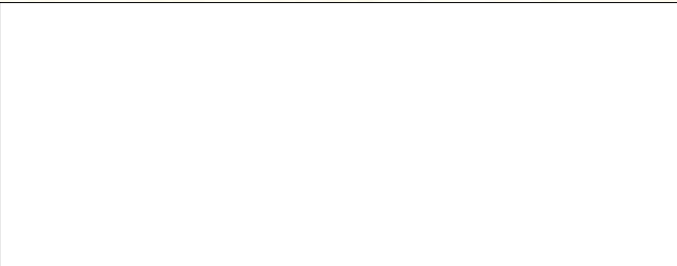
神輿の担ぎ方

- ◆神輿はバランスの悪い担ぎ方だと肩が痛くなります。
- ①手で担ぎ棒を肩にしっかりと押さえつける。
 - ②掛け声に合わせて、担ぐリズムを取る。
 - ③背筋を伸ばし真っ直ぐな状態を心がけ、かかとを少し浮かせる。
 - ④自分の肩の高さに合う場所を探して、そこで担ぐようにする。
 - ⑤担ぎ手同士が息を合わせる。

令和8年度 神輿渡御のご案内

二之宮神輿渡御

- ◆日時 令和8年 10月 12日（月・祝）雨天時短縮決行
◆受付 当日午前 10:00 ～ 10:40（神社境内神符所前）
◆渡御 午前 11:00 ～ 午後 14:00 頃
◆参加資格 18才以上の男・女
※中高生は氏子町会責任の下に参加可
◆参加費 2,000 円（渡御木札・記念酒・稲荷寿司・ビール又ジュース、保険込）※ 130 セット限定
◆絆纏 指定の神輿絆纏を着用（13,000 円でお譲りしています）。指定以外の絆纏での参加は不可。



三之宮（子供）神輿渡御

- 日時 令和8年 10月 12日（月・祝）雨天中止
◆受付 当日午前 11:00 ～ 11:40（神社境内神符所前）
●渡御 午後 12:30 ～ 13:00 頃
●参加資格 小学生以下の男児・女児
※小さなお子様については、保護者同伴でご参加ください。
●参加費 500 円（記念木札、特製大袋おみやげ、保険込）※ 60 セット限定
●絆纏 神輿絆纏は 4,500 円でお譲りしていますが、祭り衣装（町会絆纏・鯉口）をお持ちであれば参加可。



10月11日(日)

実施合図打上げ花火 午後2時
 出発式 午後6時
 連山車出発 午後6時40分



山車整列順 (17:30 ~ 18:00 までに整列場所に集合)

